

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

上の知恵」を誇る者たちのように尊大に振る舞うのではなく、「上からの知恵」を与えられた者として、「平和」を実現するようにと勧めています。

13節は真の知恵と知識は柔和な振る舞いを実行することによって示されると語っています。ギリシャ語の「知恵」は熟練や熟知を意味し、「分別」と訳されている語は「知識」や「理解力」を意味します。また、新共同訳聖書が「知恵にふさわしい柔和な行い」と訳している原文は、正確には「知恵の柔和さにおいて」になりますので、「知恵が本来持っている柔和さ」がその本来の意味です。したがって、13節は人間が人間を本当の意味で理解するには、簡単に相手を見限ったり、見棄てたりするのではなく、相手を知り続け、理解し続けようとする飽くなき柔和さを持って接することが大切であり、それこそが真の知恵と知識だと語っているのです。14節は知恵を誇る者が必然的に抱える「苦い嫉妬」と「利己心」に注意を喚起し、そのような知恵は真理に背く偽りであると厳しく断じています。15節はそのような者の知恵は神からのものではなく、この地上の悪しきものであるとの批判を展開しています。16節は「嫉妬」と「利己心」こそが「混乱」や「あらゆる悪い行い」をもたらす原因だと指摘しています。「混乱」と「悪い行い」は16節と17節の「純粹」や「平和」(温和)の対立概念であり、真の知恵が平和であるのとは正反対に、偽りの知恵は「混乱」を生み出すと批判しています。17節は「上からの知恵＝神が与える知恵」の特質として、正確には「純粹」「平和なもの」「公正」「従順」「憐れみ」「良い実」「分け隔てがない」「偽善がない」といった内容を列挙しています。18節は新共同訳では「義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです」と訳されていますが、正確には「義の実は平和のうちに平和を実現する者たちに蒔かれる」となりますので、ここで言われているのは「平和を実現する人が義の実を蒔く」のではなく、「神が平和を実現する人たちに義の実を与えてくださる」ということです。

このようにヤコブ3:13-18は、神からの知恵によって与えられる義の実は平和を実現する者たちに蒔かれると語っています。すなわち、義の実(果実=種)は「平和を実現する者たち」に蒔かれ、その実(果実=種)が実って、さらに次の世代の「平和を実現する者たち」に蒔かれるという「平和のリレー」のように、神から与えられる知恵は平和の義の実としてリレーされていくということです。アドヴェントのこのとき、わたしたちも「平和のリレー」を走り、次の世代へと「平和」を伝えていきたいと願います。

【次回の礼拝(動画の配信)】2020年12月15日(火)10時40分

聖書:ヤコブの手紙4章1-10節 奨励:「自らの思いで」小林昭博

【大学礼拝週報】2020年度第11号(後学期第11号)

2020年12月8日(火)午前10時40分

リモート礼拝(酪農学園大学 黒澤記念講堂)

《大学礼拝》 アドヴェント(待降節)
聖書の言葉とメッセージ
(メッセージ動画の配信)

前 奏

聖 書 ヤコブの手紙3章13-18節

奨 励 「平和のリレー」

小林昭博(宗教主任)

祈 り

後 奏

【本日の聖書】ヤコブの手紙3章13-18節

¹³あなたがたの中で、知恵があり分別があるのはだれか。その人は、知恵にふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい。¹⁴しかし、あなたがたは、内心ねたみ深く利己的であるなら、自慢したり、真理に逆らうそをついたりしてはなりません。¹⁵そのような知恵は、上から出たものではなく、地上のもの、この世のもの、悪魔から出たものです。¹⁶ねたみや利己心のあるところには、混乱やあらゆる悪い行いがあるからです。¹⁷上から出た知恵は、何よりもまず、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。¹⁸義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。

【メッセージ】「平和のリレー」

本日の聖書テキストは「上からの知恵」と「地上の知恵」を対比し、「地